

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科

上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456

ホームページ
www.kodomo-iin.com



暖かな日が続いたと思ったら、真冬のような寒さが。1週間ほど桜の開花が遅れているようです。

でも、もつすく桜が咲き、そして一挙に満開になること

でしょう。今から楽しみ

みです。

* * *

政治がおかしいです。今年に入ってから

も、能登半島地震の対応がなっていません。緊急事態だというのに、対策本部もたてず、首相の会見でも切

迫感がありません。災害から3か月が経つというのに、水道もまだです

し、被災家屋の撤去も一向に進んでいません。

日本には武器輸出を禁じて来ましたが、なし崩し的に装備の海外移転を進めて来ました。軍事費は今の2

倍にしようという目論みがあります



が、大半は時代遅れの武器を買つことに当てられます。

政治家自身のキックバックは誰も責任をとっていません。政治活動

に使ったと言っています。政治活動

ですが、それを証明することはできません

ん。またもや「秘書が勝手にやった」とうそぶく始末です。

給与が上がらず、一方で物価が上昇。さらに税金だけではなく、他に

納めるべき諸費用はあがり続けています。その結果、私たちの手取りは減り続けています。

少子化は進んでしまいました。昨年にはわずか70万人台に。数年前には百万人台。すごい減り方です。

こうなったのはなぜでしょう。自

民党の一強が長くなりすぎたのでしょうか。代わりに政権を取りにい

く政党がなくなったのでしょうか。私も歳を取りましたが、これほどひどい時代になるとは思ってもいませんでした。いずれ時代が良くなり、安心して暮らせるようになると思っていたのに。残念です。

* * *

この通信は400号になったのを期に、筆を下ろすことにしました。長い間、ご覧いただき、ありがとうございました。

感染症情報

インフルエンザが3月にまた大きな流行になりました。A型インフルエンザの流行は終わりましたが、B型インフルエンザに置き換わり、今シーズン2回目の大きな流行になりました。コロナ禍で数年間流行がなかったことも関係していると思います。もうしばらくは注意が必要です。

新型コロナウイルス感染症も2月に大きな流行になりました。3月に入り、次第に少なくはなっていますが、ゼロになったわけではありません。こちらも注意が必要です。

溶連菌感染症が多く発生しています。咽頭痛と発熱が主な症状です。抗菌薬による治療が必要です。

また、同様症状のアデノウイルス性咽頭炎の発生もあります。こちらは特効薬はなく、対症療法です。高熱が数日続き、1週間ほどは登園・登校停止になります。

感染性胃腸炎の発生も少なくありません。多くは、急に吐いたり下痢をしたりするウイルス性胃腸炎です。子どもたちの集団内で発生し、その後家族内での発生になることが多いです。時に、食事を介しての集団発生（つまり食中毒）もあります。

RSウイルス感染症やヒトメタニューモウイルス感染症が若干みられています。いずれも咳がひどくなり、気管支炎症状が出ます。流行が始まったのかもしれませんが。注意してください。

今月の予定

臨時休診のご案内

4月27日(土)は都合により臨時休診です。ご迷惑をおかけしますが、ご了承ください。

院長・副院長出務

上越市立谷浜小学校健診 17日

感染症情報(毎週)

医院ホームページ内

予防接種

より安全なものも

4月から予防接種が変わります。一つは四種混合ワクチンが五種混合に代わり、二つ目は肺炎球菌ワクチンの変更です。これらについて、詳しくみていきます。

●五種混合ワクチン

これまでジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオによる四種混合ワクチンでしたが、新たにヒブが加わり、五種混合ワクチンが作られました。これにより乳児期に受けるワクチンの本数は少なくなります。

百日咳はまだときどきみかけます

し、とくに赤ちゃんがかかると、呼吸を止めてしまうこともあり、大変に怖い病気です。お母さんからの移行免疫はほとんどなく、生れたすぐの赤ちゃんがかかることもありま

ジフテリアと破傷風は、現在はほとんどもみることのない病気ですが、

子どものときに作られた免疫で長く病気から守られます。

ポリオは「小児麻痺(まひ)」とも呼ばれ、手足などのまひをおこす

ことがある感染症です。以前は経口生ポリオワクチンを使っていました。本人と周囲にワクチン関連まひという副作用をおこすことがあるため、より副作用の少ない不活化ポリオワクチンに変更されました。

ヒブは乳児に細菌性髄膜炎を起す

病気です。髄膜炎とは発熱、嘔吐、頭痛、不機嫌、けいれんなどから始まり、死に至ることもある重症な病気です。肺炎球菌とともに、髄膜炎を予防することができます。

いずれも小さい赤ちゃんを守るた

めに、生後2か月から接種している、大切なワクチンです。

●肺炎球菌ワクチン

肺炎球菌は子どもたちの鼻やのどにいることの多い細菌です。通常はひっそりとしています。体力が落ちたときなどに、ほかの場所に入り込んで大きな病気をおこすことがあります。

細菌性髄膜炎はその一つ。髄膜炎

とは、脳や脊髄(せきずい)という

重要な神経を包んでいる髄膜に細菌やウイルスが感染しておきる病気。発熱、嘔吐、頭痛、不機嫌、けいれんなどの初期症状から始まり、ときに重篤になることもありますし、重

い後遺症も心配です。もしかかっってしまうと治療がとても難しい感染症です。

また肺炎球菌は小さな子どもたち

に菌血症(血液中に細菌が入り込む病気)、肺炎、中耳炎などをおこすことがあります。

肺炎球菌ワクチンはこういった肺炎

球菌による病気を予防するために作られました。ヒブワクチンとともにこの肺炎球菌ワクチンを接種することにより、乳幼児の細菌性髄膜炎はそうとう程度予防できるものと期待されます。

今回、このワクチンが13価から15

価にアップされ、より髄膜炎を起す可能性の高いものに効果が期待できるとなりました。

いずれのワクチンも、これまでは

皮下接種のみでしたが、筋肉内注射ができるようになりました。欧米では筋肉内注射で行われているもの

で、効果は変わりないということですよ。

●麻疹ワクチン

海外からの流入により、麻疹患者が増えています。一説では二十人以上になるそうです。

麻疹は死亡率が高く、また空気感

染することから感染力も高いです。効果のある薬はありません。

確実に予防するのはワクチンのみ。2回摂取すると99%の効果があると

言われています。現在は1歳台と小学校に入る前の2回、接種をすることになっています。

問題になるのは1歳前の赤ちゃんです。親もワクチンで免疫ができたので、生後半年くらいで免疫がない状態になります。生後半年から1歳

になるまでの半年間は、麻疹にかかる率が高いのです。

定期接種が1歳台を決められているので仕方ないのですが、何とかこの年齢の子どもたちがかからないようにしなければいけません。そのためにも、1歳になったらすぐに接種を受けてください。